



1 おいでまい作況情報

幼穂形成始期は、平年より1日遅くなり、出穂期は1日早くなりました。

＜令和6年度水稻作況試験生育調査結果(普通期8月26日現在)：農業試験場＞

区分	田植日	30日後(7/20)		40日後(7/30)		幼穂形成始期	出穂期
		草丈(cm)	茎数(本/m ²)	草丈(cm)	茎数(本/m ²)		
R6	6/20	52.5	497	67.7	654	8/7	8/26
過去5か年平均	6/20	49.6	605	69.8	711	8/6	8/27
差(比)		2.9	▲18%	2.1	▲8%	1	▲1

注) ▲は、短い、少ないことを示す。

2 適正な水管理

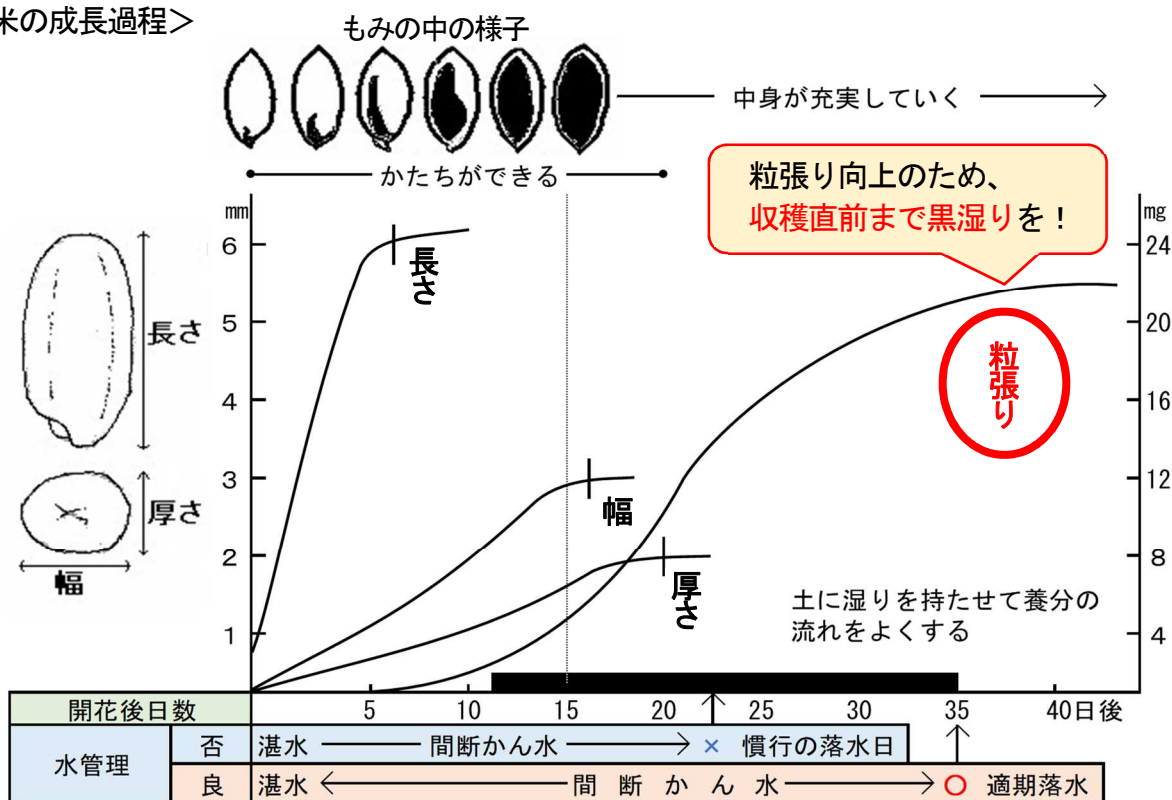
○ 穂ばらみ期からの水管理

穂ばらみ期～出穂・開花期は、「イネの一生の中で最も水を必要とする時期」であるため、出穂10日前～10日後は **湛水管理** とし、その後は **間断灌水** により根の活力を維持する。

○ 落水時期

早期落水は充実不足による品質・収量低下の原因となるため、**収穫1週間前を目途に落水する**。

＜玄米の成長過程＞



●台風通過時の注意点

・吹き返しの乾いた強風等により急速に蒸散し、**脱水症状(青枯れ、白穂等)**を引き起こす恐れがあるため、**湛水管理**とする。

3 適期・適正な病害虫防除

- ・斑点米カメムシ類は、早短期水稻収穫後、普通期水稻ほ場に飛び込み、**ほ場内で産卵・増殖！**幼虫～成虫が加害し、落等や収量低下の被害が生じるため、**地域全体での防除が重要。**
- ・ミナミアオカメムシなどの大型カメムシは、吸汁量が多いため**斑点米を作り出す能力が高い。**また、出穂直後から吸汁し不稔を発生させるイネカメムシも新たに確認されている。
- ・今年は斑点米カメムシ類の注意報が発表されており、斑点米カメムシ類の多発生が予想される。**出穂期頃と出穂後の2回防除で対策しましょう！**

●厳しい検査基準

等級	最低限度		最高限度				
	整粒 (%)	水分 (%)	被害粒、死米、着色粒、異種穀粒及び異物				
			計 (%)	死米 (%)	着色粒 (%)	異種穀粒 (%)	異物 (%)
1等	70	15.0	15	7	0.1	0.4	0.2
2等	60	15.0	20	10	0.3	0.8	0.4
3等	45	15.0	30	20	0.7	1.7	0.6

<香川県でのカメムシ類の発生消長>



○ カメムシ類



ミナミアオカメムシ



ホソハリカメムシ



アカスジカスミカメ



クモヘリカメムシ



イネカメムシ

● 必須防除

処理時期	薬剤名	使用量	使用基準
出穂後 10～20 日	スタークル粒剤(粉剤 DL)	3kg/10a	・粒剤の場合、湛水状態で均一散布。 ・収穫 7 日前まで 3 回以内。 ・ミツバチに影響があるため、養蜂がある場合は飛散に注意が必要。
	スタークル顆粒水溶剤	2,000 倍	
	スタークル豆つぶ	250g/10a	

※ 使用基準を守るとともに、農薬の飛散防止に留意してください。

★ マイスターチェック ★

- ☐ 「斑点米」軽減のため、出穂後 10～20 日のカメムシ類の必須防除を実施していますか？
- ☐ 農作業安全のため、ゆとりをもって**早めに農業機械の点検・整備を実施**していますか？



熱中症に注意して農作業に取り組みましょう！